

各学校を代表して選ばれた12名の児童・生徒

菅谷小学校	5年生	近江 愛歩	わたしの好きな嵐山町
	6年生	秋山 陽菜	嵐山町は私の大切なふるさと
七郷小学校	5年生	水谷 瑠伽	嵐山町とは
	6年生	大工原柚果	あいさつがとびかう嵐山町
志賀小学校	5年生	大越 千慧	大好きなまち 嵐山
	6年生	新井 佳斗	嵐山町の誇り
菅谷中学校	1年生	金子ひとみ	私の嵐山町
	2年生	鈴木さくら	嵐山町のいいところ
玉ノ岡中学校	1年生	塩野 真衣	私の自慢 嵐山町
	2年生	野中 陽奈	嵐山町のいい所
大妻嵐山中学校	1年生	大島 百音	私の大好きな町「嵐山」
	2年生	秋山和歌子	心がふれあう嵐山町

※敬称略



秋山陽菜さん



秋山和歌子さん

第3回 嵐山町いいところスピーチコンテストが開催されました



1月28日に、役場町民ホールにて嵐山町いいところスピーチコンテストが開催されました。この嵐山町いいところスピーチコンテストとは、嵐山町への誇りと愛着、そして

故郷のいいところを見つめ直してもらうため、町内の小中学生を対象に嵐山町のいいところを発表してもらうものです。

第1回目は「嵐山町のいいところ」と題して開催し、第2回目は「学校のいいところ」を生徒に再発見してもらいました。第3回目の今回は、再び「嵐山町のいいところ」をテーマに行い、応募総数535点の中から、各学校を代表して選ばれた12名の児童・生徒が発表をしました。

児童・生徒たちは、嵐山町のいいところを自分の言葉で生き生きと語ってくれました。その中で今回、最優秀賞に選ばれたのは、菅谷小学校6年 秋山陽菜さんと、大妻嵐山中学校2年 秋山和歌子さんです。最優秀賞に選ばれた2名の作品をご紹介します(原文のまま掲載)。

問合せ こども課 ☎62-0823

最優秀賞

「嵐山町は私の大切なふるさと」 菅谷小学校六年 秋山 陽菜

私は嵐山町が好きです。それは、嵐山町にはいいところがいっぱいあるからです。一つ目は、あいさつです。私はいさつをととても大切なものだと思います。だから、近所の人はもちろん、会った人にはあいさつを必ずしています。みんながあいさつを返してくれるので、うれしくてとてもいい気分になります。あいさつは自然と笑顔にしてくれるような気がしています。みんなの笑顔をたくさん見ることができると、とってもうれしいです。

二つ目は、自然や歴史が多いということです。嵐山町にはその昔、あの有名な畠山重忠という武将がいたことや、昔使っていた器具などがわかるというような歴史資料館があります。また、菅谷館跡など昔を感じる場所もたくさんあります。菅谷小学校で遠足に行った大平山、嵐山溪谷、オオムラサキの森など

自然豊かな町だと思ったし、子供が知らないことを、この嵐山町で教えてくれるという面では知識が豊富で学べる町だとも感じています。

そして三つ目は、私に通っている菅谷小学校です。菅谷小学校には、一四〇周年以上のとても長い歴史があります。運動会やボランティア活動など地域の方に協力してもらうというところで、菅谷小学校の生徒も地域の方々とふれあえて、いい機会に毎年なっていると思います。これから先もこの機会を大切にしたいです。

四つ目は、町がキレイなことです。通学路で歩いていると、ゴミや枯れ葉があまり落ちていないことに気付きました。私は、通学路を安全に歩けるのは、町の人がそうじをしてくれてのおかげなんだと思うと、私も気をつけなければいけないと思います。

私は、これからもこの嵐山町、私のふるさとを大切にしたい。未来に向かって、一日一日を大切にして過ごそうと思います。

「おはようございます」また、楽しい一日が始まりそうです。

最優秀賞

「心がふれあう嵐山町」 大妻嵐山中学校二年 秋山和歌子

私が嵐山町に初めて来たのは一年前のことです。それまで、一度も来たことはなくどのようなところなのか全くわかりませんでした。

嵐山町にある学校に通って、一年目の夏に嵐山町のことを好きになるともすばらしい体験をしました。それは、いつもバス通学の私がバスに乗り遅れて、電車で帰宅しなければならなかったときのことです。まだあまり嵐山町の地理に詳しくなかった私は、武蔵嵐山駅がどこにあるかわかりませんでした。私は道に迷ってしまいました。その時は近所の人が私に優しく声をかけ、ていねいに道案内までしてくださったのです。駅について私はお礼とおじぎをするのと、笑顔で「どういたしまして」と言って駅とは反対方向に山町にすんでいる人は、とても親切で温かく、優しい人ばかりなんだと思いました。

また、私は生徒会で二ヶ月に一回朝のあいさつ運動をしています。その時にも、大人から子供まで関係なく大きな声で「おはようございます」と人の目を見てあいさつをしていて、私はこんな風にあいさつができるかなと思ってしまふほど、嵐山町の人達はパワフルで他の市や町、村にはない良さがたくさんあることに気付かされます。

また、あるときバスの中から外を見ていた時におばさんの荷物を持ってあげている小学生の男の子をみました。数秒だけしかみていないのに、それだけで私の心はとてもあたたかくなりました。私はこのような場面を今までもあまり見たことがありませんでした。このような場面をみれるのは、嵐山町が面識のない人同士でもあいさつをし、困っている人に自然と手を差し伸べているからなのだと思います。

私は初め嵐山町のことを何も知らず、今も地元の人に比べたら全然知らないことばかりだけど、嵐山町にある学校に通っているのは、何かの運命だと思ふし、この機会に嵐山町の地元の方ともふれあえていきたいと思います。

嵐山町は私の生まれた場所でもなく、育った場所でもありません。でも、いつか嵐山町の方達の役に立てるような事がしたいと思っています。今、私の中では嵐山町は週六日通う場所であり、第二の故郷です。